

日语可视为名词型语言 ——基于与汉语对比的研究

彭广陆（吉林外国语大学）

1. 引言

“词类”是词的语法分类，“任何一种语言，划分词类最本质的依据，都是词的语法功能”（陆俭明 2013：42）不同的语言划分出来的词类有可能不同，即便是同一种语言，不同的语法学家划分出来的词类也可能不同，例如关于日语语法历来有三大语法之说：山田（孝雄）语法、桥本（进吉）语法、时枝（诚记）语法，如果加上“松下（大三郎）语法”则是四大语法。在战后的日本语文教学中，「学校文法」始终占据主导地位，语文词典和语文教科书以及教参都是依据学校语法编写的，但如今在对外日语教学领域，则是清一色的「日本語教育文法」。除此之外，语言学研究会的语法系统（通常被称为「教科研文法」）也别具特色。

另一方面，同一个词类在不同的语言中的作用也可能不同，甚至有时差异很大。但无论是哪种语言的词类划分，抑或是哪个语法学家的分类，通常“动词”和“名词”都占有举足轻重的地位。近年备受关注的语言类型学，也开始关注不同的语言中的动词和名词的作用。刘丹青（2010）首次基于语言类型学提出：汉语是一种动词型，或称动词优先的语言；英语则是一种名词型，或称名词优先的语言。二者分别代表了词类语法优先度上相对立的两种语言类型。

关于日语究竟属于动词型语言还是名词型语言，学者们的观点并不一致，有些人主张日语是动词型的语言（外山滋比古 1973：27-28，榎垣実 1974：296，柳父章 1979：44），也有学者认为日语属于名词型语言（新屋映子 2003，2014）。

本研究从形态类型、词类分布、名词谓语句的使用以及省略等不同的角度，对日语和汉语进行对比，指出日语从整体倾向上可视为“名词型语言”，但在形态类型、词类的句法功能、词类与句子成分的对应关系、语序上等方面又明显地表现出与英语的不同。这表明日语在语言类型学领域或许具有独特的研究价值。

2. 日语语法概观

2.1 日语的词类

关于日语的词类划分，不同的语法系统之间的差异还是很大的，例如下面的句子到底是由几个词组成的，大致就有三种不同的看法：

(1) 桜の花が咲いていた。

a. 桜 の 花 が 咲い て い た。 <8 个词。学校语法>

名词 助词 名词 助词 动词 接续助词 补助动词 助动词

b. 桜 の 花 が 咲いていた。 <5 个词。对外日语教学语法>

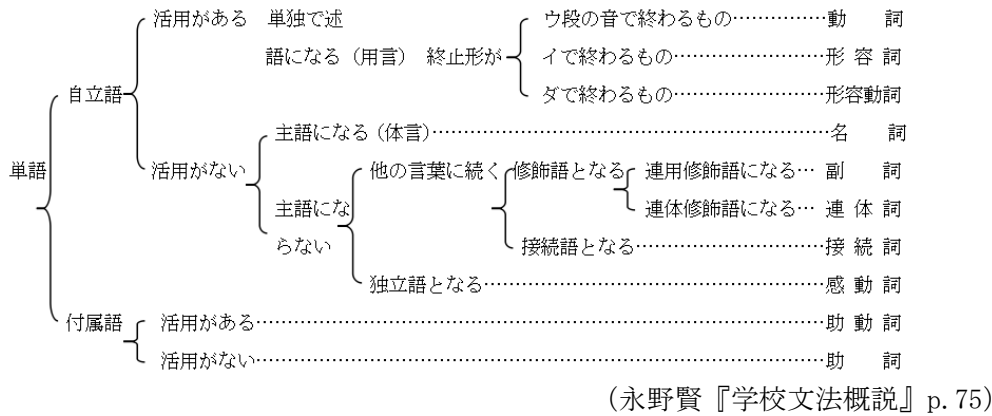
名词 助词 名词 助词 动词

c. 桜の 花が 咲いていた。 <3 个词。语言学研究会语法>

名词 名词 动词

三个语法系统主要的分歧在于如何看待日语中的“词”，关键在于是否承认“词”是构成句子的语法单位。对词的处理方式不同，不仅直接影响到词类的划分，还影响到对活用系统的看法，以至于影响整个语法的格局。关于日语语法研究，铃木重幸（1996：18）曾经有过精辟的概括，他指出近代日语语法研究（的历史）也就是在日语中发现“词”的历史。

2.1.1 学校语法的词类



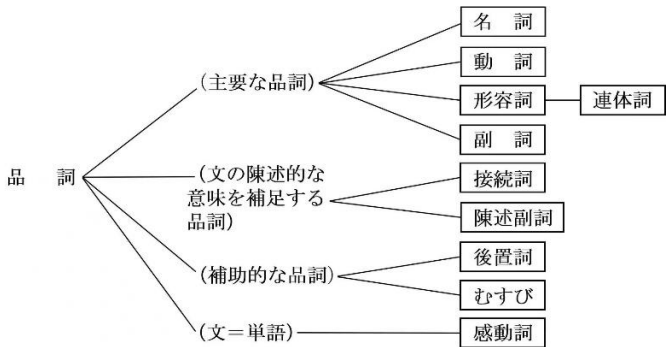
2.1.2 日本語教育语法的词类

- 名 詞
- 動 詞
- 形容詞
- 副 詞
- 連体詞
- 接続詞
- 感動詞
- 助 詞
- 助動詞

（『新版日本語教育事典』大修館書店(2005)の「品詞分類」小矢野哲夫执笔）

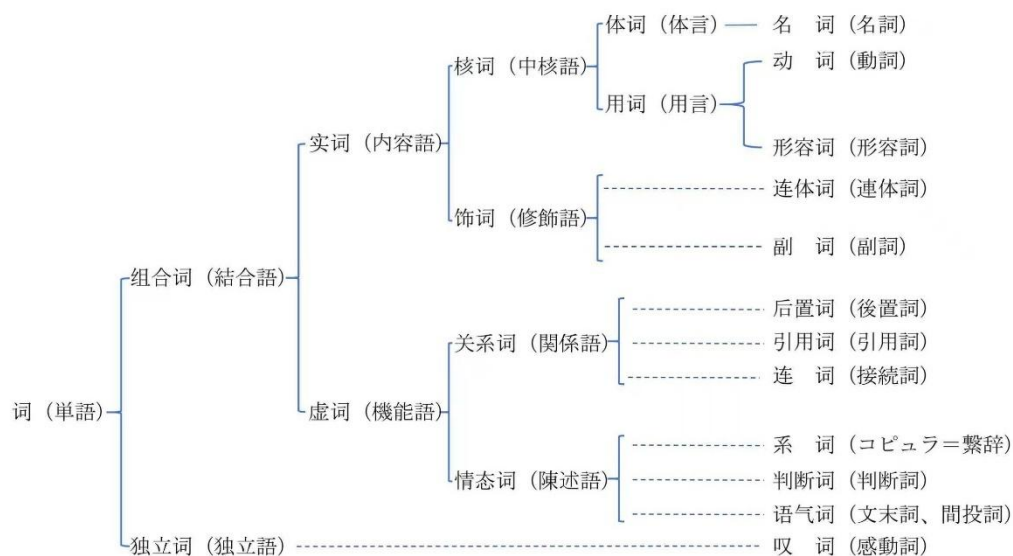
2.1.3 语言学会语法的词类

语言学会一贯坚持的最基本的学术观点大致可以归纳为：词才是构成句子的最基本的语法单位，所有的语法单位都是形式与意义的统一体（结合体），词（实词）在句子中使用时，既有词汇意义，同时也有语法意义。



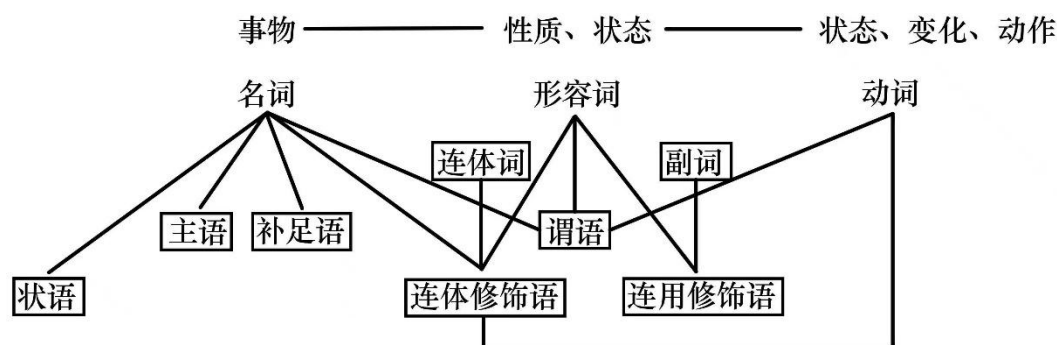
(鈴木重幸『日本語文法・形態論』むぎ書房、1972、p. 504)

2.1.4 我们构拟的日语词类系统



(彭广陆 2013)

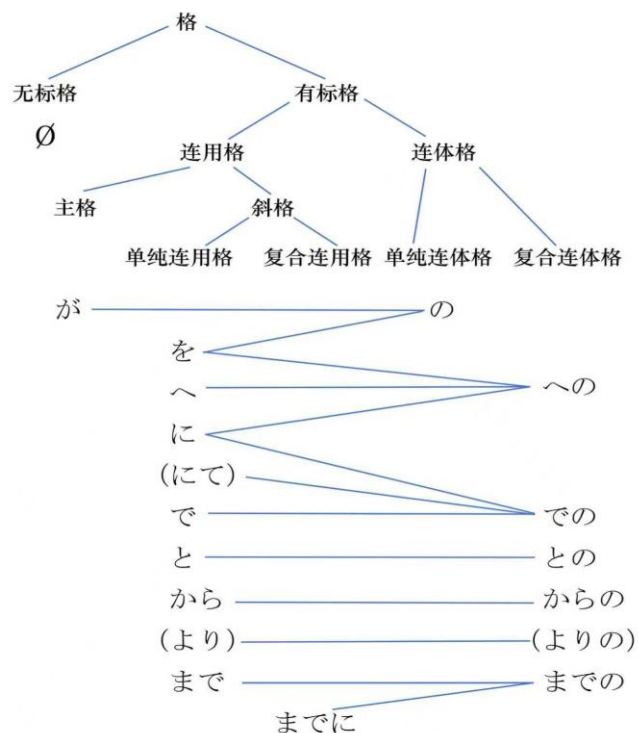
★日语实词的意义与功能



名词、动词、形容词可以说是日语的三大实词，它们在句子中使用时不仅具有句法功能和组合功能，还必然地具有断续功能，这是由其词形所决定的。如上图说示，日语的三大实词的句法功能具有多样性。

2.2 日语名词的格

关于日语的格标记的语法性质，传统的观点认为它是“词”，称之为“（格）助词”（近些年来也有一些人认为它是“后置词”），持这种观点的学者认为日语的名词只表示概念，而不具备语法功能，只有后接助词以后才具有语法功能。奥田靖雄（1985：145—157）对这种观点进行了批判。铃木重幸（1972）、奥田靖雄（1984）、铃木康之（1989）、高桥太郎（2005）等都把日语的格标记看作构形后缀，这就意味着不仅日语的动词和形容词有形态变化，而且日语的名词也有形态变化，前者通常被称为「活用」，而后者被称为「曲用」。彭广陆（1998，2009）也支持这种观点，并且建立了这样的格配置的系统：



2.3 系词的语法地位

日语的「だ・です・である」相当于汉语的“是”和英语的“BE”，在汉语和英语中它们被看作动词，但日语的「だ・です・である」的语法属性，长期以来有着不同的看法和称谓：

表 1 各家的不同主张

语法定位	使用的术语	主张者
认为它不是词，是后缀	むすびのくっつき	鈴木重幸（1972）
	結辞	鈴木康之
	コピュラ助辞（むすびのくっつき）	高橋太郎ほか（2005）
认为是虚词（功能词）	助動詞	永野賢（1986） 日本語記述文法研究会（2010）
	判定詞	寺村秀夫（1984）， 益岡隆志・田窪行則（1992）
	系詞	彭广陆（2013）

「だ・です・である」不能视为「助動詞」（彭広陸 2007），因为它与通常所说的“助动词”有很大的不同，但把它看作构成名词谓语词形的后缀也不妥，因为它不能涵盖下面这样的用法（彭广陆 2013）。

- (2) これはですね。
- (3) それでだ。
- (4) だよね。

2.4 “连用”与“连体”

来自中国古代思想体系的“体”和“用”这一组对立的概念，对于日语语法而言具有重要的意义，二者的对立也构成日语语法的一大特点（彭广陆 2006）。而且，“连体”和“连用”成为将日语的词法与句法有机地结合起来的桥梁。

單語		體言	用言
形態論	名詞	連体格	連用格
	動詞	連体形	連用形
	形容詞	連体形	連用形
構文論		連体修飾語	連用修飾語
		名詞述語文	動詞述語文
			形容詞述語文

考虑到术语的体系性，我们认为与其将「体言」「用言」译作“体词”“谓词”，不如译为“体词”“用词”，陈光磊的《汉语词法论》中就使用了“用词”。同理，「連体修飾語・規定語」与其译作“定语”，不如译为“连体修饰语”。

3. 指称与述谓

指称（Reference）和“述谓（Predication）”是一组对立的概念，前者与的功能是指向世界中的对象，其功能主要由体词承担；后者是对对象进行断定、描述，其功能主要由用词承担。但是，体词和用词的功能在一定的条件下可以转换。

词类	句法成分	语用功能	功能转换	句法成分
体词（名词）	主语/补足语	指称	述谓	谓语
用词（动词/形容词）	谓语	述谓	指称	主语/补足语

4. 名词谓语句的认定

在汉语中，判断词“是”被认定为动词，所以使用“是”的句子被认为是动词谓语句，而没有使用“是”的句子才被认为是名词谓语句。但是，日语中使用了「だ/です/である/であります」的句子通常被认为是名词谓语句。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (5) 北京是中国的首都。 | <动词谓语句> |
| (6) 今天星期天。 | <名词谓语句> |
| (7) 富士山は日本一の山だ。 | <名词谓语句> |
| (8) 花は桜、人は武士。 | <名词谓语句（体言止め）> |

5. 日语是单肢语言吗？

『言語学大辞典 第6巻 術語編』で、主語と述語を文の不可欠な要素とする言語は「両肢原語」、述語だけを文の必須の要素とする言語を「単肢言語」と呼んでいる。（p. 896）（新屋 2014:17）

日语的主语经常省略（不使用），所以被认为是单肢语言，即以动词为中心的语言。但是，实际上日语的动词也经常被省略。

6. 日语作为名词型语言的几个特点

6.1 系词谓语句发达

- (9) まもなく終点東京です。/ 列车即将达到终点东京站。 <陈述>
- (10) トイレはどこですか。/ 厕所在哪儿？ <疑问>
- (11) やり直した。/ 你重新做！ <新使>
- (12) 「さあ、出発だ」 「これでいいはずよ」
- (13) 「出発だ。薬を買いに行こう」 ネイルは、少々強めにクロノの肩を叩いた。 <邀请>
- (14) しばらくして、マーシーは帰るために立ちあがった。「わたしは、そろそろ寝る時間だわ」 そのときまで眠気など少しも見せなかったカイラが、伸びをしてあくびをした。 <意愿>
- (15) 「向こうに着いたら、おまえは首だ。」/ 到了那边你就会被解雇了！ <以言行事>
- (16) 「火事だ、火事だ！」 「どっちだ！」 「駅のほうらしいぞ！」 <感叹句>
- (17) 「泥棒よ、泥棒だわ」 最初に聞き取れた単語がそれだった。 <感叹句>
- (18) 秋香：抓贼啊！抓贼啊！（《唐伯虎点秋香》1993 中国香港影片）
- (19) 「なんじゃ、こりゃ」 「地震だあ…。家がつぶれちゃうよう」 <感叹句>

6.2 判断词谓语句发达

- (20) 非常の時には非常の人が必要なのだ。非常の人には非常の教えが必要なのだ。
- (21) 時間と言うものはとても早いものだ、最近つくづく思いつつ・・・。
- (22) 王羲之は鶯鳥がとても好きだったということだ。
- (23) したがって、脳内の栄養状態をうまく回復させることが改善のカギになるわけだ。
- (24) 数学のコスモロジーの問題というのは、文化のコスモロジーの問題に通底するはずだ。

6.3 句末名词句发达

在日语的书面中，抽象名词（不饱和名词）后接系词结句的句子极为常见，新屋（2014）第6章中将这类名词称作「文末名詞」，尤其构成的句子为「文末名詞文」。这些句子都很难直接翻译成汉语。

- (25) 彼は、「周りがしゃべっていても、一人で勉強したいタイプだった」ので、友達とおしゃべりをしていても、いつのまにかテキストに集中していた。
- (26) 政府は、廃食用油などを原料とする次世代航空燃料「SAF」の普及に向け、国内航空会社による購入費用を支援する方針だ。
(<https://news.yahoo.co.jp/pickup/6567386>)
- (27) 「おまえたちは、家を継ぐことを考えなくてよい。学問をやれ」 それは父の、一大決心だった。
- (28) 林野庁の外郭団体の協力を得て三年間樹木を育てた後、タイ政府側に引き渡す計画だ。

6.4 体词结句常见

- (29) 「明日の結婚式、何時から？」 (BCCWJ)
- (30) また、与党にとっての不安材料は野党だけでなく自民党内にも。

- (31) 高市早苗首相「私が本当にふてぶてしい女なら居座ることも」解散判断への批判に反論
- (32) 金正恩の娘を「触ってしまった」幹部の問題行動…“不敬な態度”で処刑の例も
- (33) 世界をつなぐ、あたらしい空へ。 (ANA の広告)
- (34) 若者の痩せ願望 小児科医が警鐘
小児科医は、無理な減量が生理不順や骨密度の低下、さらには次の世代の健康にまで影響を及ぼすと警鐘を鳴らします。
- (35) 信号を右



6.5 体词短语常见

- (36) 三顧の礼/三顾茅庐
- (37) 背水の陣/背水一战
- (38) 出藍の誉れ/青出于蓝而胜于蓝
- (39) 地震火事雷親父
- (40) 一姫二太郎
- (41) すらりと伸びた長い足にフォローウーも仰天。「脚が細くてびっくり」「美脚！！」「可愛い」とほれぼれした。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a822496880618f225c9ebf4e1d179ce7ff0efef9>

7. おわりに

参考文献

- 陈光磊, 2001, 《汉语词法论》学林出版社。
- 刘丹青, 2010, 汉语是一种动词型语言——试说动词型语言和名词型语言的类型差异, 《世界汉语教学》24 (01): 3-17。
- 陆俭明, 2013, 《现代汉语语法研究教程》第四版, 北京大学出版社。
- 彭广陆, 2009, 从语言类型学看日语“格助词”的特点, 《华西语文学刊》12-22+266
- 彭广陆, 2013, 论日语的系词, 《日语学习与研究》(04): 49-55。
- 许宗华, 2001, 《现代日语名词谓语句的语用研究》军事谊文出版社。
- 榎垣実 (1974) 「比較言語学的にみた日本語と英語」『復刻文化庁国語シリーズ V 外国語と日本語』教育出版。
- 王亜新, 2001 「名詞述語文の意味関係と構文機能」『国文学 解釈と鑑賞』66-07: 86-92。
- 王亜新, 2010, 日本語と中国語における「間接行為構文」-構文ネットワークの観点から-『日中言語対照研究論集』12: 15-29。
- 大島資生, 2010, 『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房。
- 奥田靖雄, 1985, 『ことばの研究・序説』むぎ書房。
- 佐藤里美, 1997, 「名詞述語文の意味的なタイプ—主語が人名詞の場合—」『ことばの科学 8』むぎ書房。
- 佐藤里美, 2001, 「テキストにおける名詞述語文の機能—小説の地の文における質・特性表現と〈説明〉—」『ことばの科学 10』むぎ書房。
- 新屋映子, 2003, 日本語の述部における名詞の機能, 『日本語教育研究論集』05: pp. 131-147 カナダ日本語教育振興会 Journal CAJLE, Vol. 5
- 新屋映子, 2014, 『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房。
- 鈴木重幸, 1996, 『形態論・序説』むぎ書房。
- 鈴木康之, 1989, 『概説・現代日本語文法 日本語文法の常識』桜楓社。
- 外山滋比古 (1973) 『日本語の論理』中公公論新社。
- 永野賢, 1986, 『学校文法概説』新訂版, 共文社。
- 彭広陸, 1998, 日本語の格について, 北京日本学研究中心編《日本学研究 7》, 世界知识出版社。
- 彭広陸, 2006, 「連体」と「連用」について—日本語教育における新しい文法体系の構築のために—『ことばの科学 11』むぎ書房, pp. 327-339。
- 彭広陸, 2007, 品詞としての「助動詞」について, 『日本語と中国語と—その体系と運用』学苑出版社, pp. 15-33)
- 益岡隆志・田窪行則, 1992, 『基礎日本語文法』くろしお出版。
- 尹盛熙, 2021, 『ことばの「省略」とは何か』大修館書店。